

プログラム番号	06003
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	北海道大学 大学院農学院		
②学長名	中村睦男		
③所在地	〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	農学院・教授(特別コース長)	
	担当者氏名	横田 篤	e-mailアドレス yokota@chem.agr. hokudai.ac.jp
	電話・FAX番号	電話 011-706-2501 FAX 011-706-4961	
⑤ホームページ URL	http://www.agr.hokudai.ac.jp/		
⑥大学院在学留学生数	563 人(うち、国費留学生 214 人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	共生基盤科学のための英語による特別プログラム
②プログラムの形態	博士前期課程+博士後期課程(2+3年間)
③実施研究科・専攻	農学院 共生基盤学専攻
	(所在地) 札幌市北区北9条西9丁目
④連携大学・研究科・専攻名	その他の専攻: 応用生物学専攻、生物資源科学専攻、環境資源学専攻
⑤受入れ学生数	15 人(前期 7人+後期 8人) (うち研究留学生優先配置人数: 前期 5人+後期 5人) (うち日本人学生数: 0 人)
⑥担当教員数	合計 43 人(うち専任: 0 人、兼担: 43 人、非常勤: 0 人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 農学院・学院長
	研究科長名 諏訪 正明

【3. プログラムの内容】

1. はじめに

北海道大学は1876年に札幌農学校として創立された日本で最初の高等農業科学教育研究施設である。本学は12の学部、16の大学院研究科（院）、その他の研究所および研究センターなどからなり、約4,000名の教職員、10,000名以上の学部学生及び約6,000名の大学院学生が在籍し、その中には約80ヶ国・800名程の外国人留学生が含まれている。

北海道大学の中で、農学部は130年以上の長い歴史を持つ最古の学部であり、北海道の開拓という目的の為に創設されて以来、農学分野では常に先端を歩み、これまでに多くの著名人を輩出してきた。今日、北海道大学農学部は日本の国立大学法人の農学部の中で最も権威のある農学部の1つとなっており、日本全国から入学者を集めている。大学院農学研究院もまた同様であり、併せて質の高い教授及び職員が在籍している。2000年には大学院教育に重点を置いた「大学院重点化大学」へと移行し、21世紀に於いて日本の最も優秀な大学院の1つとして、最高のレベルを維持しようとしている。

「共生基盤科学のための英語による特別プログラム」（以下、特別プログラム）は、これまでの「農芸化学特別コース」を基盤として、大学院農学院に新たに2007年4月に設立される。本プログラムは、未来における人類の生存基盤、すなわち地球上の限られた資源を保全し持続的に活用する為に必要な、食料、健康科学、環境に関わる教育研究の独創的なプログラムである。なお、本プログラムでの使用言語は英語である。我々はこのチャンスをぜひ有効に活用していただきたいと思っている。

2. 開設の趣旨

人類生存の共生基盤に関わる農学、特にバイオテクノロジーと環境科学を中心とした学問領域の教育と研究を推進する農学院4専攻の研究分野に、主として東南アジア諸国、中国、韓国の留学生を受け入れ、当該国およびわが国にとって有為な専門家を育成し、学術の発展、本学の国際化、諸外国との相互理解の増進、国際社会への知的貢献等を図ろうとするものである。

3. 内容および特色

農学院は2006年度に大学院の機構改革により設置され、その教育理念を「バイオマス循環型社会の形成」とした。本特別プログラムは、この教育理念に基づいて、特にバイオサイエンスの立場から留学生を教育し、母国へ送り返す枠組みとして位置づけられる。学生は、「バイオマス循環型社会形成」に関わる教育研究を全面に打出した新設の「共生基盤学専攻」を中心に、「応用生物科学専攻」、「生物資源科学専攻」さらに「環境資源学専攻」を含む農学院の全4専攻のいずれかに所属し、特別コース担当教員の指導の元で、人類生存の共生基盤に関わる農学の重要課題を総合的に学習する。

本プログラムは博士前期2年＋博士後期3年の形態をとり、毎年それぞれ5名、合計10名の研究留学生を配置し、さらに、最大5名程度の私費留学生を受け入れる。入学時期は優先配置国費外国人留学生の場合は10月、それ以外の留学生については10月の他に4月、の年2回とする。

カリキュラムは、修士論文、博士論文のほかに、4専攻それぞれに特徴的な授業科目が開設されている。これらの授業科目は2006年度からの農学院開設に当たって、その教育理念に基づいて全て新設されたものである。論文指導および講義は全て英語を用いて行われるため、学生はただちに学習を開始できる。

4. 教育・指導体制

本プログラムを担当する教授等の氏名とその研究室名、並びに各教員の農学院における留学生受け入れ研究分野について示す（機構改革により、農学研究科は2006年4月から教員が所属する農学研究院と、学生が所属する農学院に分かれた。すなわち、教員は農学研究院で研究室を主宰し、学生の指導は農学院の関連研究分野で行う仕組みになっている）。

所属学生ごとに教員3名からなる教育研究指導委員会が設けられ、学生は主に本委員会の教員から論文作成のための指導を受ける。この指導体制と「バイオマス循環型社会形成」に合致したカリキュラムにより、高い教育効果が期待され、この領域の専門家として広い視野を持った有為な人材を

養成できる。

さらに、過去10年間同様のプログラムを運営してきた実績があり、本プログラム担当教員のみならず、教務係職員、特別プログラム専任事務員、日本人の大学院学生等による学業や日常生活における様々な協力体制が強固に構築されており、留学生が安心して研究生活に専念できる環境がある。

本プログラムを担当する研究室と教員	留学生所属研究分野
植物栄養学（大崎 満 教授）……………	共生基盤学専攻
生物有機化学（鍋田憲助 教授）	根圏環境制御学
生物化学（松井博和 教授）……………	化学生物学
食品栄養学（原 博 教授）……………	機能性食品変換学
微生物生理学（横田 篤 教授※） ……	機能性食品健康科学
	胃腸内圏微生物学
	応用生物科学専攻
生態化学（田原哲士 教授）……………	生態化学
木質生命化学（生方 信 教授）……………	木質生命化学
食品機能化学（川端 潤 教授）……………	食品機能化学
応用菌学（浅野行蔵 教授）……………	応用菌学
	基礎環境微生物学※※
	生物資源科学専攻
分子生物学（尾之内 均 助教授）……………	分子生物学
分子酵素学（木村淳夫 教授）……………	分子酵素学
応用分子昆虫学（伴戸久徳 教授）……………	応用分子昆虫学
植物病原学（上田一郎 教授）……………	植物病原学
	環境資源学専攻
土壌学（波多野隆介 教授）……………	土壌学
森林化学（寺沢 実 教授）……………	森林化学

※ 特別コース長

※※ 連携大学院分野（田村具博 教授）（私費留学生のみを配置予定）

5. 問合せ先、募集方法、募集対象国、選考方法

入学希望者は希望する研究領域により上記特別コースを担当する教員に直接連絡し、受入れ可能性（奨学資金、受入れ時期、研究テーマ等）について事前に十分な打合わせを行う。その後、願書を送付するので、候補者は必要書類を作成の上、所属機関長の承諾を得て出願する。出願時期は国費留学生（10月入学）の場合は1月末であるが、それ以外の場合は担当教員と相談すること。国費留学生候補者は、出願後は取下げできないことに留意されたい。本プログラムに関する一般的な問合せは特別コース長横田まで連絡されたい。

候補者から提出された願書をもとに書面選考を行い、成績（GPA等）や事前の打合せ状況から可否を判定する。募集対象国としては特に制限はないが、プログラムの性格上、途上国を優先的に採用する。国費留学生（10月入学）の場合は、本人への通知は8月上旬の予定である。

6. 応募者に期待される資質

応募者には、英語能力を含めた高い学業成績、優秀な人格はもちろんであるが、本プログラムでの勉学に意欲的に取り組み、期限内に成果を上げる強い意志が求められる。修了後は本コースで修得した成果を生かし、専門家として母国の発展に貢献するばかりでなく、当該専門分野のキーパーソンとして、わが国との人的ネットワーク形成、相互理解の増進に貢献することが期待される。